

ペットのための認知症保険

1 / 2

ひとりで抱え込まないで！わが子の老後に備える保険

●商品の狙い

人生100年時代、ペットは20年時代に突入？

ペットの長寿化が進行中です。現存のペット保険は医療に備えるもので、介護に備えることはできません。

わたしは、18歳9か月の猫（人間なら91歳）を飼っています。認知症を患い、目も見えず、全介助が必要です。ペットの介護は人間と比べて楽だと思いがちですが、行うことは変わりません。認知症のため、不安に思うのか昼夜を問わず鳴き続けます。目が見えないため、食事や水を自分から摂れない。寝たきりになると、床擦れ防止のため、向きを変える必要もあります。また、寝たきり防止のためのマッサージや体を清潔に保つことはかせません。なぜなら粗相が多くなるからです。ペット用のおむつは赤ちゃんのおむつの3倍と高額です。

このようにペットの介護は飼い主の負担は重く、仕事にも支障が出てしまうことでしょう。そして何よりも、精神的にもつらい思いをします。

一方でペットシッターや、ペットのデイサービスなども存在しますが、介護保険のないペットにとってその負担は重くなります。そんなペットの介護に備える保険が必要だと痛感しています。

ペットのための認知症保険

2/2

ひとりで抱え込まないで！わが子の老後に備える保険

●主要ターゲット

犬や猫を飼っている人で、わが子の老後に備えたい方すべて

●商品概要

「ペットのための認知症保険」は、ペットの犬や猫が認知症や寝たきりで介護が必要となったときに、一時金30万円をお支払いします。

人間と異なり、介護保険制度がなく、金銭的なことや精神的なことを、すべて飼い主さんが一人で抱え込むこととなります。一時金を受けることで、デイサービスに預ける費用にしたり、あるいはシッターさんの自宅まで来てもらう費用してもよいでしょう。また、人間の赤ちゃんの3倍以上するペット用おむつ費用などに活用できます。

保険種類	ペット保険
保険金額	一時金：認知症との診断 あるいは寝たきりで介護が必要なとき、一律30万円
保険料例	保険料は、年齢、犬種、猫等に応じて1,000円から6,000円 なお、介護になりやすい犬種として、日本犬や大型犬などが挙げられる。 加入可能年齢：小型犬・中型犬・猫＝8歳から16歳まで 参考：小型犬・中型犬・猫年齢を人間に換算すると、下記のとおり 8歳⇒48歳程度 16歳⇒80歳程度 加入可能年齢：大型犬 6歳から13歳 人間年齢では 6歳⇒47歳程度 13歳⇒82歳程度 保険期間：ペットが25歳になるまで
保険金受取 (支払事由)	獣医師による認知症あるいは、寝たきりであると記載されている診断書が必要です。一般的に2,000円程度で取得できるそうです。